地域スポーツの拠点としての空手道場の役割について
―K市の空手道場を手掛かりにして―

大森　宗一郎　（生涯スポーツ学科　地域スポーツコース）
指導教員　菅井京子

キーワード：地域スポーツ，空手道場，人々のつながり

はじめに

本研究の目的は，K市の空手道場を手掛かりにして，地域スポーツの拠点としての空手道場の役割について明らかにすることである．用いる資料は，厨　義弘・大谷　善博著『地域スポーツの創造と展開』，井上　俊・菊　幸一編著『よくわかるスポーツ文化論』，道原　伸司著『空手道』などである．また，K市のある道場においてインタビュー調査を行う．

Ⅰ．地域スポーツについて

地域スポーツという用語が生まれたのは1955年頃である．地域スポーツとは，地域性をきっかけとして，スポーツ施設を共有するという条件での自発的活動であり，その活動を通じて作り出される「われわれの意識」が何らかの形で地域社会を作り出そうとする思いを含んでいる時の活動をいう．

地域スポーツの意義としては，家族や隣人，地域住民が一緒にスポーツをすることで人々の絆や人間関係ができることがあげられる．この繋がりにより，学校体育の同年齢集団では見ることのできないような様々な年齢層の人々が一緒にスポーツを楽しむことができる．

Ⅱ．空手と道場について

空手の練習には，基本稽古やミット稽古，約束組手，組手稽古がある．空手の技は危険な技であるため，自分の力量を知ることさらに，自分の力を加減できるようにすることが重要である．そのために，一人でする基本稽古，サンドバックを相手にミット稽古をする．それができるようになってから相手と段取りを決めて行う約束組手と最後に試合として組手稽古を行う．それが安全のために考えられた方法である．しかし，空手は怪我には繋がらない場合でも痛さは常にある．だからこそ相手の痛みがわかり，相手を思いやる気持ちが生まれる．

町道場には少年少女が親に連れられて来たり，社会人になってから来る人がいたり，退職してから来る人などの年代を超えた人々が集まる．また，長く通っている人が通っている期間の短い人に対して教えることもあり，そこで武道のことはもちろん，文化や生活のことなど様々な面での交流ができる．これにより町道場の中で世代間や男女間を超えた交流が生まれる．さらにK市にある道場のインタビューでも月に2度（第2土曜日，第4土曜日）全年代（4，5歳～70，80歳）で練習を行い，そこで世代を超えた交流をしていることが分かった．親子で通って，親が子を教えたり，長く通う経験者が年配の初心者に教えたりするという交流であった．これこそが町道場の面白さである．

おわりに

K市の空手道場は空手を通して様々な年齢層の人々が広く関わり合うことができる場所で，しかも私の父が通っていたということ，私が通っていたことさらに将来自分の子供が通うだろうということを考え合せると文字通り時代を超えたつながりができ，文化を継承する場所であるといえる．このことより空手道場は地域スポーツのひとつの拠点として人々をつなぎ，文化を継承するという重要な役割を果たすといえる．

注および引用・参考文献

・厨　義弘・大谷　善博（2001年），地域スポーツの創造と展開，大修館書店，7，8，21頁
・丸山　富雄編著（2000年），スポーツ社会学ノート現代スポーツ論，中央法規，112頁
・道原　伸司（2002年），空手道，成美堂出版11，12頁